

2011 年度「日本語（読解・作文）」授業報告

手科 美保（関西学院大学日本語教育センター講師）

1 授業目的

「日本語（読解・作文）」は、2 年生以上の留学生を対象とした選択科目で、日本語の読む・書く能力を伸ばすことを目指している。今年度は、論文読解を通して、レポートでよく使われる表現やレポートの書き方の手順を学び、論理的な文章の書き方を身につけ、レポートが書けるようになることを目標とした。

2 授業内容と授業の流れ

全 14 回の授業では、学期を通して 1 つのレポートの作成に取り組んだ。受講生は、2 年生 8 名、3 年生 1 名の計 9 名であった。教科書は『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）を使用した。

昨年度の「日本語（読む・書く）」では、レポートを執筆する際、テーマの設定が大きな課題の 1 つであった。多くの学生たちが身近なところで問題意識を持つテーマを見つけることや、テーマを字数にあわせて絞り込むことが困難であると感じていることがわかった。

そこで、今年度は、レポートの構想を練る事や、アイディアを整理するための手助けとなる課題に取り組む事から始めた。そして第 12 回までに、各受講生はレポートのテーマ、アウトライン、序論、本論をそれぞれ提出することとした。教師はそれらにコメントを加えて返却し、翌週個別にフィードバックを行った。さらにクラス内報告会を行い、受講生はその場で得たコメントをもとに内容を再検討した後、レポートを提出した。

3 今後の課題

今学期は、授業を通して 1 つのレポートを執筆するなかで、レポートの中間報告の機会を増やし、その都度個別にフィードバックを行うという進め方をしたが、この進め方は概ね好評であった。学期末の「授業に関する調査」では、受講生から「この科目でよかったこと」として、「個人的な相談時間があった」「レポートについて知ることができてよかった」「内容について説明してくれてわかりやすい」といったコメントが挙げられた。

しかし、レポートに適当なテーマを設定するための練習は、さらに充実させる必要がある。ある受講生はテーマを設定するまでに時間がかかりすぎたため、独自のアンケート調査を実施するなど工夫をしたにもかかわらず、十分な分析ができなかった。学生が日頃から問題意識を持ち、それをレポートにつなげられるような課題を充実させる事を今後の課題としたい。